

天草広域連合新ごみ処理施設
整備・運営事業

審査講評

令和 5 年 5 月

天草広域連合新ごみ処理施設
整備運営事業者選定委員会

本事業は、天草広域連合（以下「広域連合」という。）構成市町の天草市、上天草市、苓北町から排出される一般廃棄物を合理的、経済的かつ衛生的に処理するための新たな広域ごみ処理施設（エネルギー回収型廃棄物処理施設、マテリアルリサイクル推進施設）を整備するものであり、30年間以上の安定稼働を目標としつつ、当面19年9か月間の運営管理も同時に委託するものである。

本事業の発注にあたり、事業者の選定については競争性の担保及び品質の確保並びに透明性・公平性の確保を目的として、価格と品質を総合的に評価する総合評価一般競争入札方式を採用した。そのうえで総合評価一般競争入札の円滑な手続きを行うため、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2第4項の規定に基づき「天草広域連合新ごみ処理施設整備運営事業者選定委員会」が設置されたところである。

本委員会は、令和2年8月24日から令和5年5月16日まで計11回開催し、ごみ処理方式の評価、事業者選定の発注準備、技術提案内容の審査等を行い、応募者の意欲と創意工夫に富んだ技術提案に対し、厳正かつ公正な審査を行った。

その結果、令和5年5月16日に落札候補者を決定し、委員会の所掌事務が終了したことから事業者選定に係る総合評価の検討内容及び経過の総括として、ここに審査講評をとりまとめた。

新ごみ処理施設が広域連合構成市町（天草市、上天草市、苓北町）の循環型社会の構築に寄与する施設として、エネルギーの有効活用や資源循環を達成するとともに、自然環境や社会環境との調和、周辺地域との共生ができる施設となることを期待する。

最後に、応募者には、提案要望内容が多岐にわたり、その検討に多大な労力をお掛けしたと思われるが、技術提案書をまとめられた熱意に敬意を表する。

令和5年5月30日

天草広域連合新ごみ処理施設整備運営事業者選定委員会
委員長 鳥居 修一

《目 次》

第1章 事業概要	1
1. 事業名	1
2. 事業目的	1
3. 事業対象施設	1
4. 事業期間	1
5. 主な事業内容	1
第2章 民間事業者の募集及び選定に関する事項	2
1. 民間事業者の募集及び選定方法	2
2. 募集及び選定スケジュール	2
3. 審査の機関	3
第3章 審査の手順及び方法	4
1. 入札参加資格審査	4
2. 基礎審査	4
3. 非価格要素審査	4
4. 価格審査	6
5. 総合評価	6
6. 審査の流れ	7
第4章 審査結果	8
1. 参加資格審査	8
2. 基礎審査	9
3. 非価格要素審査	10
4. 価格審査	12
5. 総合評価	12
6. 講評	13
第5章 審査総評	15

第1章 事業概要

1. 事業名

天草広域連合新ごみ処理施設整備・運営事業

2. 事業目的

広域連合管内では、広域連合の管理する2か所のごみ処理施設と、天草市が管理する3か所のごみ処理施設が稼働しているが、これらの施設はいずれも老朽化による機能低下が進行しており、施設更新の必要に迫られてきた。このことから、これら施設の集約により、環境性能、資源循環性能、強靱性に優れた新ごみ処理施設を整備し、経済的で効率的な施設運営を図るため、施設の建設と長期的な運営に民間活力を導入し、安全で安定的かつ経済的な施設の整備運営を目指すものである。

3. 事業対象施設

ア 施設規模

エネルギー回収型廃棄物処理施設	95t/24h (47.5t/24h×2炉)
マテリアルリサイクル推進施設	26t/5h

イ 建設予定地

熊本県天草市楠浦町地内

4. 事業期間

設計・建設業務：令和5(2023)年8月(契約締結日)から令和9(2027)年6月30日まで
運営・維持管理業務：令和9(2027)年7月1日から令和29(2047)年3月31日まで

5. 主な事業内容

(1) 設計・建設業務

機械設備工事(エネルギー回収型廃棄物処理施設、マテリアルリサイクル推進施設)
土木・建築工事(工場棟、管理棟、ストックヤード棟、計量棟、場内整備)
試運転及び運転指導

(2) 運営・維持管理業務

運転管理業務
維持管理業務
測定管理業務
防災管理業務
情報管理業務
関連業務

第2章 民間事業者の募集及び選定に関する事項

1. 民間事業者の募集及び選定方法

本事業では応募者が、本事業の入札公告に際して配布する入札説明書、要求水準書、契約書案、落札候補者決定基準書などの書類（以下「入札説明書等」という。）に示す参加資格要件を満たしており、かつ応募者の提案内容が、技術的観点から広域連合の要求水準を満足することが見込める内容であることを前提として、落札候補者を決定した。なお、落札候補者の決定は、公平性、透明性の確保の観点から、総合評価一般競争入札方式により行った。

2. 募集及び選定スケジュール

募集及び選定スケジュールは、表1のとおりである。

表1 募集及び選定スケジュール

内 容	日 程
① 入札公告及び入札説明書等の公表・交付	令和4（2022）年 8月 17日（水）
② 第1回入札説明書等に関する質問受付期限	令和4（2022）年 9月 9日（金）
③ 第1回入札説明書等に関する質問回答の公表	令和4（2022）年 9月 26日（月）
④ 入札参加資格審査申請書類受付・審査	令和4（2022）年 10月 3日（月）
⑤ 入札参加資格審査結果の通知	令和4（2022）年 10月 7日（金）
⑥ 現地見学会	令和4（2022）年 10月 13日（木） ～ 14日（金）
⑦ 概要説明会提出図書受付期限	令和4（2022）年 10月 25日（火）
⑧ 概要説明会	令和4（2022）年 11月 1日（火） ～ 2日（水）
⑨ 第2回入札説明書等に関する質問受付期限	令和4（2022）年 11月 11日（金）
⑩ 第2回入札説明書等に関する質問回答の公表	令和4（2022）年 11月 25日（金）
⑪ 事業提案書等入札書類の受付期限	令和5（2023）年 2月 24日（金）
⑫ 落札候補者決定	令和5（2023）年 5月 16日（火）
⑬ 基本協定締結	⑫の後速やかに
⑭ 事業契約仮契約締結	令和5（2023）年 7月中旬
⑮ 議会承認	令和5（2023）年 8月上旬
⑯ 事業契約本契約	令和5（2023）年 8月上旬

3. 審査の機関

応募者の事業提案の審査を公平に専門的知見に基づいて実施するため、広域連合が設置した事業者選定委員会において審査及び落札候補者の選定を実施した。

事業者選定委員会の構成は、表2のとおりである。

表2 天草広域連合新ごみ処理施設整備運営事業者選定委員会委員

	委員名	所 属	役 職
学 識 経 験 者	鳥居 修一	国立大学法人 熊本大学大学院 先端科学研究部教授（機械・エネルギー創生）	委員長
	北辻 政文	公立大学法人 宮城大学 食産業学群教授（建設環境材料学）	副委員長
行 政 機 関	塩先 敏彦	天草市 市民生活部長	委 員
	水野 博之	上天草市 市民生活部長	委 員
	田尻 悟（令和2、3年度） 松本 康秀（令和4年度） 本田 保（令和5年度）	苓北町 水道環境課長	委 員
	濱崎 正明	天草広域連合 事務局長	委 員

第3章 審査の手順及び方法

落札候補者の選定にあたっては、次に示した段階ごとに審査を行った。

1. 入札参加資格審査

応募者から提出された入札参加資格審査申請書類等を基に、入札説明書の「応募者の入札参加資格要件」に示した事項を満たしているかどうかの確認を行った。入札参加資格要件を満たしていることが確認された応募者のみ、次段階の事業提案審査に参加できるものとし、入札参加資格要件を満たしていない応募者は失格とすることとした。

なお、入札参加資格審査結果については応募者に対して通知した。

2. 基礎審査

基礎審査として、入札参加資格審査を合格した資格審査通過者から提出された提案内容が広域連合の要求する水準を満足するものであることについて確認を行った。確認された資格審査通過者のみ次段階の非価格要素審査及び価格審査に進むこととした。

3. 非価格要素審査

(1) 非価格要素審査の項目及び配点

基礎審査において広域連合の要求する要件を満たした応募者を対象として、落札候補者決定基準書に基づき非価格要素について審査し、非価格要素点を決定した。

審査項目及び配点は、表3のとおりとし、非価格要素点の得点が25.00点以下である場合は失格とすることとした。

非価格要素点は60点満点とする。

ただし、25.00点以下は失格とする。

※ 得点は小数第3位を四捨五入して、小数第2位まで算出する

表3 非価格要素審査における審査項目及び配点

審査項目		評価の視点	配点	様式番号 (枚数)
設計・建設業務			30	
工事中の対策	施工計画	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備の工事工程が事業スケジュールと整合しているか。 工事中の振動、騒音、粉じん、濁水等対策について優れた提案であるか。 先行する敷地造成工事から円滑に現場を引き継ぐための工夫や配慮は検討されているか。 工事車両による渋滞と公害防止対策について優れた提案であるか。 	4	様式6-1 (4)
安心・安全・安定性への配慮	全体配置計画及び機器配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 各施設の配置が合理的かつ効率的であり、敷地を有効に活用した計画であるか。 多様な搬入出車両に対し、安全性・利便性に優れた動線計画であるか。 機器のメンテナンス、補修及び更新等を考慮した配置計画となっているか。 	4	様式6-2 (4)
	安定稼働	<ul style="list-style-type: none"> 焼却対象ごみの量と質の変動等に対してシステム上安定性が確保される計画か。 その他受入れ対象ごみでの異物混入に関するシステム上の配慮は適切か。 	4	様式6-3 (4)
環境保全対策	公害防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス、騒音・振動、悪臭等の各公害防止基準を確実に満足するための装置構成やシステムは適切な提案であるか。 システムに温室効果ガス(CO2)排出量低減のための、改良や工夫が見られるか。 	4	様式6-4 (4)
資源、エネルギーの有効利用	エネルギー回収	<ul style="list-style-type: none"> 発電効率、発電量、売電量向上のために優れたシステムであるか。 	2	様式6-5 (2)
	その他資源、エネルギーの有効利用	<ul style="list-style-type: none"> 最終生成物の資源化を安定的に実現できる提案であるか。 回収する資源物の純度、回収率向上について優れたシステムであるか。 	3	様式6-6 (2)
啓発機能	学習機能	<ul style="list-style-type: none"> 安全性、快適性に優れた見学者ルートを確保しているか。 環境学習や防災学習について優れた提案であるか。 	3	様式6-7 (2)
外観・意匠	施設の外観及び居室環境	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境と調和のとれたデザインとなっているか。 各室の機能と目的に応じた適切な提案であるか。 	3	様式6-8 (2)
非常時対策	災害発生時における計画	<ul style="list-style-type: none"> 地震、水害、停電等の非常時における安全性の確保と稼働の継続または迅速な復旧に対して適切な提案であるか。 災害廃棄物の受入れと迅速な処理を考慮した提案であるか。 火災、爆発等に対する対策について優れた提案であるか。 	3	様式6-9 (2)
運営・維持管理業務			18	
運転管理	受付管理計画	<ul style="list-style-type: none"> 一般搬入者への受付・計量、ごみの荷降ろし、再計量、支払いまでの手続きがわかりやすく、円滑に誘導できる提案であるか。 処理不適物の混入防止対策や搬入物検査について効果的提案であるか。 	2	様式6-10 (2)
	運転計画	<ul style="list-style-type: none"> 本施設を長期的にかつ安全、安定的に稼働するための運転計画、組織体制、人員配置計画について優れた提案であるか。 	2	様式6-11 (2)
	資源化、エネルギー回収	<ul style="list-style-type: none"> 年間発電量や年間売電量を最大化するための配慮は適切か。 最終生成物の資源化を継続的かつ安定的に実現するための体制や工夫が検討されているか。 	3	様式6-12 (2)
保安全管理	保全計画	<ul style="list-style-type: none"> 基本性能を維持しつつ、長期的に安定した稼働が可能な計画的、効率的な計画であるか。 業務終了後、次の運営事業者への引継ぎが円滑に行えるよう配慮されているか。 ライフサイクルコストに配慮されているか。 	4	様式6-13 (4)
環境管理	公害防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス、騒音・振動、悪臭等の各公害防止基準が確実に遵守するよう配慮されているか。 温室効果ガス(CO2)排出量の少ない提案であるか。 	2	様式6-14 (2)
非常時対策		<ul style="list-style-type: none"> 地震、水害、停電等の非常時において安全性と稼働の継続または迅速な復旧を図る体制等が考慮されているか。 災害廃棄物が搬入される場合の体制の確保は十分に配慮されているか。 	3	様式6-15 (2)
来場者・周辺住民対応		<ul style="list-style-type: none"> 見学者説明や環境・防災啓発活動等に対する支援体制について優れた提案であるか。 地域住民との信頼構築について優れた提案であるか。 	2	様式6-16 (2)
事業計画			12	
事業収支計画		<ul style="list-style-type: none"> 長期の事業継続を考慮した計画性、妥当性のある事業収支計画であるか。 	3	様式6-17 (2)
リスク管理		<ul style="list-style-type: none"> 本事業に伴うリスクの認識と対応策について優れた提案であるか。 	3	様式6-18 (2)
地元貢献	地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> 建設工事、運営事業が地元経済の活性化に寄与する提案であるか。 	3	様式6-19 (2)
	地域雇用	<ul style="list-style-type: none"> 地域雇用拡大や人材育成に寄与する提案であるか。 	3	様式6-20 (2)

(2) 非価格要素審査における得点化方法

非価格要素点は、表3に示す各審査項目を表4に示す採点基準により得点化し、その合計点とした。

各審査項目の評価点については、各委員が個別に行った評価の平均値とし、平均値を求める際は、小数第3位を四捨五入した値とした。

表4 審査項目の採点基準及び得点化方法

評価	採点基準	得点化方法
A	特に優れている	(配点×1.00)
B	AからCの間	(配点×0.75)
C	優れている	(配点×0.50)
D	CからEの間	(配点×0.25)
E	要求水準を満たす程度	(配点×0.00)

4. 価格審査

予定価格を超過しない応募者の入札価格について、以下に示す算定式により価格点を算出した。なお、入札価格が予定価格を超過している場合は失格とした。

- ・最低入札価格 > 基準額の場合

$$\text{価格点} = 40 \text{ 点} \times (\text{最低入札価格} / \text{入札価格})$$

- ・最低入札価格 ≤ 基準額の場合

$$\text{価格点} = 40 \text{ 点} \times (\text{基準額} / \text{入札価格})$$

※ 得点は小数点第3桁を四捨五入して、小数点2桁まで算出する

※ 最低入札価格：応募者から提出された入札価格のうち最低の入札価格

※ 入札価格：応募者から提出された入札価格

※ 基準額以下の入札価格には40点を付与

※ 基準額は事後公表

5. 総合評価

非価格要素点と価格点の合計値を総合評価点とし、総合評価点の最も高い提案をした応募者を落札候補者とした。

$$\text{総合評価点} = \text{非価格要素点} + \text{価格点}$$

6. 審査の流れ

審査の流れは、図1のとおりである。

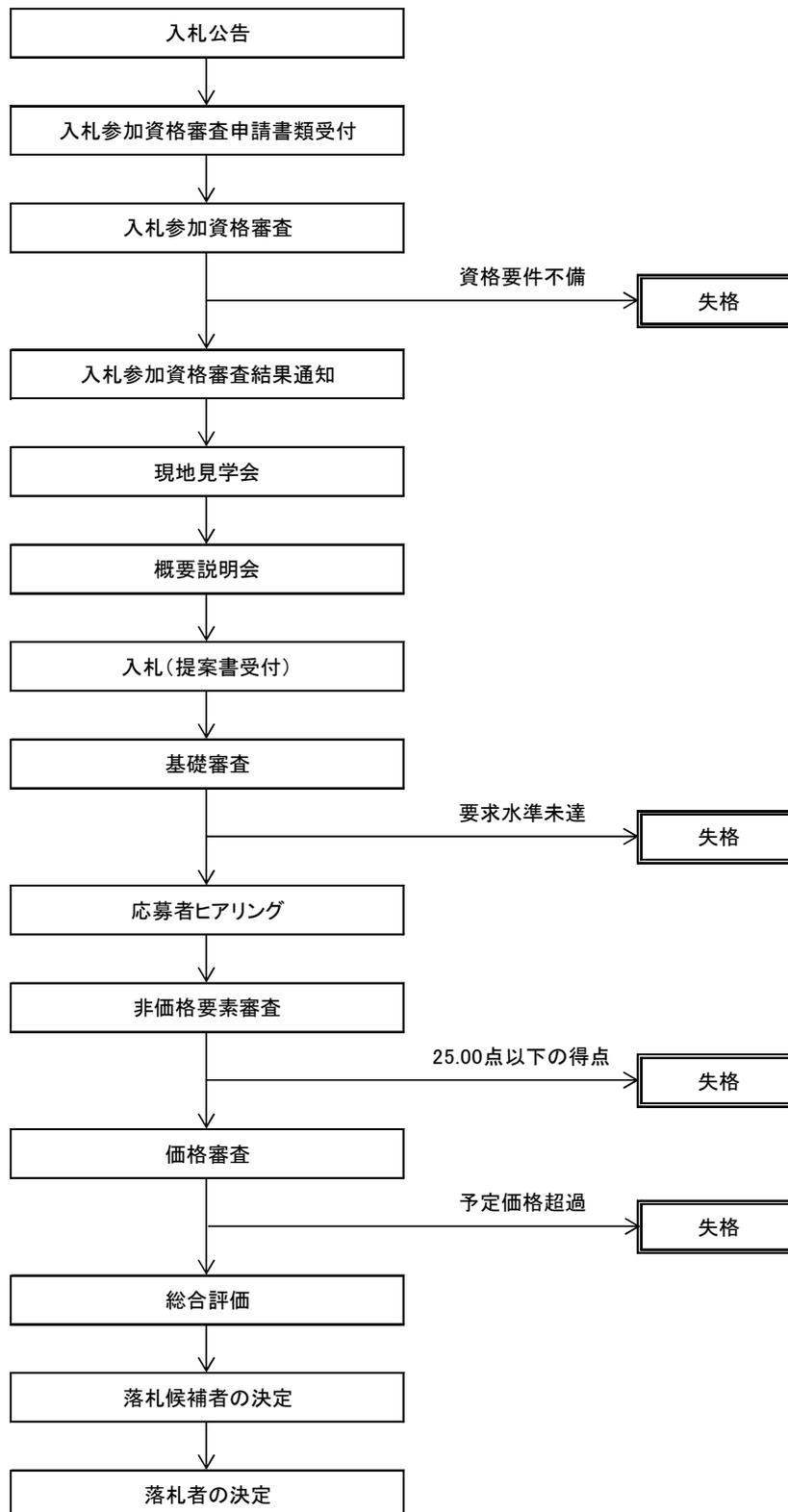


図1 審査の流れ

第4章 審査結果

1. 参加資格審査

(1) 入札参加資格審査申請書の確認

令和4年8月17日に入札公告を行い、令和4年10月3日、2グループから入札参加資格審査申請書の提出があった。

提出書類について、入札説明書等に示す必要な書類が全て提出されているかを確認した。その結果、両グループにおいて必要な書類が揃っていることを確認した。

(2) 参加資格審査

両グループから提出された入札参加資格審査申請書類等により、入札説明書に示す入札参加者が満たすべき参加資格要件を満たしているかを審査した。その結果、両グループにおいて参加資格を有することを確認し、入札参加資格審査通過者として選定し、令和4年10月7日付けで結果を通知した。また同日、企業名をふせて審査するため、当該グループの応募者記号をそれぞれ「いるかグループ」、「かもめグループ」とする応募者記号の交付を行った。

入札参加資格審査申請書の提出があったグループは表5のとおりである。

表5 応募者一覧

応募者記号	入札参加者名
いるかグループ	代表企業：株式会社川崎技研 構 成 員：九州テクニカルメンテナンス株式会社 天草支店 協力企業：大豊建設株式会社 九州支店 ツネイシカムテックス株式会社 株式会社エコネコル 三池製錬株式会社 ツネイシカムテックス陸運株式会社 株式会社 Green prop 株式会社大島産業
かもめグループ	代表企業：日鉄エンジニアリング株式会社 九州支店 協力企業：株式会社鴻池組 九州支店 株式会社中村建設 日鉄環境エネルギーソリューション株式会社 大日本清掃有限会社 株式会社エヌジェイ・エコサービス 三池製錬株式会社 株式会社 Green prop

2. 基礎審査

令和5年2月24日にいるかグループから提案書の提出があり、事務局が内容を確認した結果、表6に示すとおり基礎審査項目を全て満たしていることの報告を受けた。

なお、かもめグループについては令和4年12月14日付けにて辞退届が提出された。

表6 基礎審査結果

確認事項		確認結果	
提出書類の整合確認	必要な書類がそろっているか。	提案価格に関する提出書類（入札書）	○
		基礎審査に関する提出書類の提出確認（様式5・1～5・11）	○
		非価格要素審査に関する提出書類の提出確認（様式6・1～6・20）	○
		事業計画に関する提出書類の提出確認（様式7・1～7・5）	○
	書類間の整合が図られているか。	基礎審査に関する提出書類の書類間での整合確認	○
		非価格要素審査に関する提出書類の書類間での整合確認	○
		事業計画に関する提出書類の書類間での整合確認	○
		基礎審査に関する提出書類と非価格要素審査に関する提出書類の整合確認	○
		基礎審査に関する提出書類と事業計画に関する提出書類の整合確認	○
		非価格要素審査に関する提出書類と事業計画に関する提出書類の整合確認	○
事業提案内容が要求水準書の要求水準を満たしているか。	要求水準書と基礎審査に関する提出書類の整合確認	○	
	要求水準書と非価格要素審査に関する提出書類の整合確認	○	
	要求水準書と事業計画に関する提出書類の整合確認	○	

3. 非価格要素審査

(1) 応募者ヒアリング

事業者選定委員会にて、提案内容の確認を行うために、令和5年5月16日にいるかグループに対してヒアリングを実施した。

(2) 非価格要素審査結果

応募者ヒアリング実施後、落札者決定基準書に基づき非価格要素審査を実施し、非価格要素点を決定した。

いるかグループの非価格要素審査結果を表7に示す。

表7 非価格要素審査結果

審査項目			様式	配点	平均点
設計・建設業務				30	15.64
工事中の対策	施工計画	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備の工事工程が事業スケジュールと整合しているか。 工事中の振動、騒音、粉じん、濁水等対策について優れた提案であるか。 先行する敷地造成工事から円滑に現場を引き継ぐための工夫や配慮は検討されているか。 工事車両による渋滞と公害防止対策について優れた提案であるか。 	6-1	4	2.17
		<ul style="list-style-type: none"> 各施設の配置が合理的かつ効率的であり、敷地を有効に活用した計画であるか。 多様な搬入出車両に対し、安全性・利便性に優れた動線計画であるか。 機器のメンテナンス、補修及び更新等を考慮した配置計画となっているか。 	6-2	4	2.00
安心・安全・安定性への配慮	全体配置計画及び機器配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 焼却対象ごみの量と質の変動等に対してシステム上安定性が確保される計画か。 その他受入れ対象ごみでの異物混入に関するシステム上の配慮は適切か。 	6-3	4	2.33
	安定稼働	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス、騒音・振動、悪臭等の各公害防止基準を確実に満足するための装置構成やシステムは適切な提案であるか。 システムに温室効果ガス(CO2)排出量低減のための、改良や工夫が見られるか。 	6-4	4	2.00
環境保全対策	公害防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 発電効率、発電量、売電量向上のために優れたシステムであるか。 	6-5	2	1.25
資源、エネルギーの有効利用	エネルギー回収	<ul style="list-style-type: none"> 最終生成物の資源化を安定的に実現できる提案であるか。 回収する資源物の純度、回収率向上について優れたシステムであるか。 	6-6	3	1.13
	その他資源、エネルギーの有効利用	<ul style="list-style-type: none"> 安全性、快適性に優れた見学者ルートを確保しているか。 環境学習や防災学習について優れた提案であるか。 	6-7	3	1.63
啓発機能	学習機能	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境と調和のとれたデザインとなっているか。 各室の機能と目的に応じた適切な提案であるか。 	6-8	3	1.50
外観・意匠	施設の外観及び居室環境	<ul style="list-style-type: none"> 地震、水害、停電等の非常時における安全性の確保と稼働の継続または迅速な復旧に対して適切な提案であるか。 災害廃棄物の受入れと迅速な処理を考慮した提案であるか。 火災、爆発等に対する対策について優れた提案であるか。 	6-9	3	1.63
非常時対策	災害発生時における計画				
運営・維持管理業務				18	9.64
運転管理	受付管理計画	<ul style="list-style-type: none"> 一般搬入者への受付・計量、ごみの荷降ろし、再計量、支払いまでの手続きがわかりやすく、円滑に誘導できる提案であるか。 処理不適物の混入防止対策や搬入物検査について効果的提案であるか。 	6-10	2	0.75
	運転計画	<ul style="list-style-type: none"> 本施設を長期的にかつ安全、安定的に稼働するための運転計画、組織体制、人員配置計画について優れた提案であるか。 	6-11	2	1.00
	資源化、エネルギー回収	<ul style="list-style-type: none"> 年間発電量や年間売電量を最大化するための配慮は適切か。 最終生成物の資源化を継続的かつ安定的に実現するための体制や工夫が検討されているか。 	6-12	3	1.50
保全管理	保全計画	<ul style="list-style-type: none"> 基本性能を維持しつつ、長期的に安定した稼働が可能な計画的、効率的な計画であるか。 業務終了後、次の運営事業者への引継ぎが円滑に行えるよう配慮されているか。 ライフサイクルコストに配慮されているか。 	6-13	4	2.67
環境管理	公害防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス、騒音・振動、悪臭等の各公害防止基準が確実に遵守できるよう配慮されているか。 温室効果ガス(CO2)排出量の少ない提案であるか。 	6-14	2	0.92
非常時対策		<ul style="list-style-type: none"> 地震、水害、停電等の非常時において安全性と稼働の継続または迅速な復旧を図る体制等が考慮されているか。 災害廃棄物が搬入される場合の体制の確保は十分に配慮されているか。 	6-15	3	1.63
来場者・周辺住民対応		<ul style="list-style-type: none"> 見学者説明や環境・防災啓発活動等に対する支援体制について優れた提案であるか。 地域住民との信頼構築について優れた提案であるか。 	6-16	2	1.17
事業計画				12	6.26
事業収支計画		<ul style="list-style-type: none"> 長期の事業継続を考慮した計画性、妥当性のある事業収支計画であるか。 	6-17	3	1.50
リスク管理		<ul style="list-style-type: none"> 本事業に伴うリスクの認識と対応策について優れた提案であるか。 	6-18	3	1.38
地元貢献	地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> 建設工事、運営事業が地元経済の活性化に寄与する提案であるか。 	6-19	3	1.63
	地域雇用	<ul style="list-style-type: none"> 地域雇用拡大や人材育成に寄与する提案であるか。 	6-20	3	1.75
合計				60	31.54

4. 価格審査

(1) 入札、開札の実施

令和5年5月16日、非価格要素審査の後、開札を行った。

(2) 価格審査

入札価格が予定価格を超えていないかを確認した。その結果、いるかグループの入札価格が予定価格の範囲内であることを確認した。

価格審査の結果を表8に示す。

表8 価格審査結果

項目	いるかグループ
予定価格（税抜き）	33,585,000,000円
基準額（税抜き）	28,547,250,000円
入札価格（税抜き）	33,500,000,000円
価格点	40.00点

※最低入札価格>基準額のため、

価格点=40点×(最低入札価格/入札価格)により算出

5. 総合評価

価格審査終了後、落札者決定基準書に基づき非価格要素審査と価格審査の得点を加えて総合評価点を決定した。総合評価の結果を表9に示す。

また、総合評価の結果より、いるかグループを落札候補者として決定した。決定した落札候補者を表10に示す。

表9 総合評価結果

項目	いるかグループ
非価格要素点（配点60点）	31.54点
価格点（配点40点）	40.00点
総合評価点（配点100点）	71.54点

※総合評価点=非価格要素点+価格点により算出

表10 落札候補者

応募者記号	入札参加者名
いるかグループ	代表企業：株式会社川崎技研 構成員：九州テクニカルメンテナンス株式会社 天草支店 協力企業：大豊建設株式会社 九州支店 ツネイシカムテックス株式会社 株式会社エコネコル 三池製錬株式会社 ツネイシカムテックス陸運株式会社 株式会社 Green prop 株式会社大島産業

6. 講 評

非価格要素審査に係る講評を表 11 に示す。

表 11 講 評

審査項目		様式	講 評	
設計・建設業務	工事中の対策	施工計画	6-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事中における環境美化対策や粉じん、悪臭対策等、現場周辺住民に配慮されている点を評価した。 ・ 造成工事完了から施設着工までの現場管理も率先して行う提案である点を高く評価した。 ・ 大型工事用車両の運行状況を管理するとともに、その情報提供まで考慮されていた点を評価した。
	安心・安全・安定性への配慮	全体配置計画及び機器配置計画	6-2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分割された敷地を、大型バスの駐車場や運営事業者用駐車場に活用し、主要施設の配置をメインの敷地で完結するよう配慮されていた点を評価した。 ・ 時計回り一方通行の車両動線で、動線の交差を極力回避しつつ安全に走行できるよう配慮されている点を評価した。 ・ 通常のメンテナンスや長期安定稼働のための基幹改良工事にも配慮した配置計画であることを評価した。
		安定稼働	6-3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 85～100%負荷までの範囲で助燃を用いることなく自動制御運転できる提案を高く評価した。 ・ ごみピット容量を要求水準7日分に対して10日分確保している点を高く評価した。 ・ 異物混入防止のための不燃ごみ用破袋機、手選別コンベヤの提案を評価した。
	環境保全対策	公害防止対策	6-4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排ガス中のダイオキシン類について、飛灰に移行する吸着技術を主とせず、触媒による分解を主とするシステムとした提案を評価した。 ・ 排ガス中の水銀対策として、水銀濃度を監視しながら活性炭の吹込み量を自動調整する提案を評価した。 ・ CO₂排出量の削減に関して、太陽光発電やクレーン再生発電等積極的な提案を評価した。
	資源、エネルギーの有効利用	エネルギー回収	6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 95t/日の施設規模において、5.8Mpa×450℃の高温高压ボイラと抽気復水タービンの採用は、画期的なレベルとして特に高く評価した。 ・ 高圧受電のため、発電機容量の最大値を2,000kWと捉え、これに太陽光発電量を差し引いた値で定格を決定している提案については、より最適な計画を見出すための協議が必要と感じられた。
		その他資源、エネルギーの有効利用	6-6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼却灰を主灰と落じん灰に分けて別々に資源化を果たすと共に、飛灰の資源化も提案されていたが、長期的・安定的継続性についてはモニタリングが必要と感じられた。 ・ リサイクル施設における資源化率向上のためのシステム上の工夫は一般的な内容と感じられた。
	啓発機能	学習機能	6-7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理棟と両施設がそれぞれ渡り廊下で接続され、施設の見学が全てワンフロアで展開できる点を評価した。 ・ 学習設備の充実や付加価値について工夫されており、陳腐化対策としての更新も考慮されていた点を評価した。
	外観・意匠	施設の外観及び居室環境	6-8	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザインコンセプトの提案とこれに沿った意匠設計が成されており、圧迫感低減のための配慮も成されている点を評価した。 ・ 棟毎の機能別エリア分けや、各室の機能・目的に応じた配置が考慮されていた点を評価した。
	非常時対策	災害発生時における計画	6-9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時に供給が不安定となる薬剤の貯留に関して、常時7日分の容量を確保する等、用水・用役の備蓄量に十分な余裕を見込んでいる点を評価した。 ・ 災害廃棄物の受入れに、プラットホームの一部を活用する提案であったが、小規模災害時に限定される提案であった。 ・ 火災・爆発対策については、ごみピット放水銃の複数設置、破碎可燃物からの発火を考慮した高磁力マグネットプーリーによる再選別の提案を評価した。

審査項目		様式	講評	
運営・維持管理業務	運転管理	受付管理計画	6-10	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル施設の側面に異種ごみ混載車用の荷降ろし場を設け、受付・計量から支払いまで一周の動線で完了できる提案は評価できるが、可燃ごみの荷降ろし後の不燃ごみのみを持ち込む車両との錯綜を考慮する必要がある。 処理不適物の啓発と確認として、持込前、受付時、受入後の段階毎で具体的な提案が成されていたが、より積極的な処理不適物の搬入防止を考慮する必要がある。
		運転計画	6-11	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー回収型廃棄物処理施設の長期連続運転と計画的な休炉実現のための具体的な提案と実現性を評価した。 リサイクル施設への人員配置は一般的な提案であったが、両施設間で柔軟な相互サポート体制を構築する対案を評価した。
		資源化、エネルギー回収	6-12	<ul style="list-style-type: none"> 年間発電量を最大化するためのケーススタディーが成されており、これに基づく提案を評価した。 主灰、落じん灰、飛灰はそれぞれのルートで資源化が達成される提案であるが、大量の生成物を遠方へ運搬する必要があるため、コストアップの抑制に留意する必要がある。
	保全管理	保全計画	6-13	<ul style="list-style-type: none"> モバイル機器やウェアラブルカメラを活用した巡回点検と、代表企業の遠隔支援システムを活用する提案を評価した。 事業終了の5年前に施設引渡し委員会を設立し、事業終了後もこれを継続させて広域連合をサポートする提案は特に高く評価した。 施設の建設から解体に至るまでの期間を三段階に区別し、それぞれの期間において個別に提案されている点を評価した。特に消耗・劣化した部品を緊急用予備品として再生保管する提案は高く評価した。
	環境管理	公害防止対策	6-14	<ul style="list-style-type: none"> 要監視基準値が停止基準値の近似し過ぎており、運用の実用性に懸念があるため、運営開始までに協議が必要である。 CO₂排出量については、最終生成物資源化のための遠方への運搬による影響から、売電による削減効果が抑制される結果であった。
	非常時対策		6-15	<ul style="list-style-type: none"> 非常時における安全性確保や稼働継続、迅速な復旧に対する提案は、事業者の実績を高く評価した。 災害廃棄物の処理について、最大2,299t/年まで対応する運転計画の見直し提案されているが、この具体的な内容の確認が必要である。
	来場者・周辺住民対応		6-16	<ul style="list-style-type: none"> 見学者の目的に合わせた受入れと属性に応じた説明について提案されている点を評価した。 S P Cの地域ボランティア活動への参加、地域イベントへの参加・協賛等具体的な提案を評価した。
事業計画	事業収支計画		6-17	<ul style="list-style-type: none"> S P Cを自主的に設立し、代表企業と構成員により1億円の資本金を拠出する他、不測の事態には、代表企業による3億円の融資枠を設ける提案を評価した。 収支の安定化を図るため、運営期間中は不測の事態に備えて毎期の営業利益を内部留保する提案を評価した。
	リスク管理		6-18	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のリスク管理委員会を開催し、これが中心となってリスク管理するとともに、セルフモニタリングを実施する提案を評価した。 保険付保に対する提案では具体的な内容が必要である。
		地域活性化	6-19	<ul style="list-style-type: none"> 建設工事において20.3億円、運営事業において53.1億円、総額73.4億円の地域貢献を果たすとの提案を評価した。
	地元貢献	地域雇用	6-20	<ul style="list-style-type: none"> 地元在住で既設従事経験を有する希望者全ての雇用継続を図る提案は高く評価した。 地元雇用に配慮した運転体制の構築とノウハウの継承、キャリアアップの提案を評価した。 運営期間終了後の運転員の処遇として、本人の希望に応じて代表企業または構成員の正社員となる選択肢が用意されている点を評価した。

第5章 審査総評

本事業は広域連合が管内の一般廃棄物を広域で集約処理する新たな広域ごみ処理施設を整備し、民間事業者による長期の運営により、効率的な事業推進を図るものである。

このような事業の実施にあたり、総合評価一般競争入札を導入し、事業者選定委員会では、透明性、公平性に最大限配慮した評価基準及び審査方法等を定め、落札者候補選定のための審査を実施したところである。

今回、提案書を提出した1グループの提案は、限られた時間の中で本事業の目的を的確に捉え、多岐にわたる要求事項を満たすとともに、本事業実施への創意工夫や技術力（ノウハウ）の発揮が見受けられるものであった。

選定委員会においては、提案書に対して厳正なる審査を行った結果、株式会社川崎技研を代表とする応募者（いるかグループ）を落札候補者として選定するに至った。

末尾ながら、昨今の建設費等の高騰状況にあるなかで、積極的に意欲的な提案を行った落札候補者の真摯な姿勢に対して敬意を表す次第である。

事業者選定委員会からの提言

応募者からの提案は優れているものの、更に望ましい事業が実施されるように、審査を務めた事業者選定委員会として以下の提言を行う。

- ① 雨水排水については、現場下流の河川を経由して海域へ排水することとなるが、建設中のみならず運営期間中においても、搬出入道路を含めた全敷地流域からの濁水の流出防止に努め、海域の汚染・汚濁防止に十分留意されたい。
- ② 最終生成物の資源化については、主灰を人工砂に、落じん灰及び飛灰はそれぞれ有価物回収による資源化を提案しているが、この計画が19年9か月間の運営期間を通じて円滑に継続できるよう努められたい。特に主灰の人工砂としての資源化は、西日本においてその実績が確認できないため、確実な業務遂行が強く望まれる。
- ③ 見学者用学習機能については、見学者の多様性や学習内容に応じたゾーン分けが提案されており、設備の陳腐化対策としての更新も考慮されていた。今後の事業実施にあたっては、これらの設備や内容にサーキュラーエコノミーを反映して、時代のニーズとともにより一層最適化されるよう努められたい。
- ④ 計画施設に持ち込まれる処理不適物は、最終的に広域連合の負担により処理・処分を行うものであるが、運営事業者においてはこれらを安易に受け入れることなくその最小化に努め、広域連合の負担軽減に協力するよう努められたい。
- ⑤ 年間の総売電量をさらに増加させるため、蒸気タービンによる発電と太陽光発電の連系や、逆潮に関して送配電事業者と綿密な協議調整を行い、より最適な計画の検討を期待したい。
- ⑥ 地元発注額については、提案額を確実に超えるよう管理し、その成果が具体的な積算において確認できるよう実行されることを期待する。
- ⑦ 新施設の稼働時期または数年後の間に中継施設が複数箇所で整備される計画となったため、当該施設の稼働開始前後において、新施設への搬入車両とその台数が変化する予定である。新施設でのごみの受付及び搬入管理は、このことに対しても柔軟に対応するよう配慮されたい。

最後に、事業期間を通じ広域連合と落札候補者が良きパートナーとなり、本事業を良いものとするために十分な協議と真摯な対応に努め、地域住民との信頼関係を築きながら質の高い公共サービスを提供するために協働して取り組むことを期待する。

以 上